

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)

【公表番号】特表 2016-538292 (P2016-538292A)

【公表日】平成 28 年 12 月 8 日 (2016.12.8)

【年通号数】公開・登録公報 2016-067

【出願番号】特願 2016-530991 (P2016-530991)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/573 (2006.01)

A 6 1 F 9/007 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 K 9/22 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2017.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/573

A 6 1 F 9/007 1 7 0

A 6 1 P 27/02

A 6 1 K 9/22

A 6 1 K 47/34

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 1 年 5 月 13 日 (2019.5.13)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 5 】

ある実施形態によると、糖尿病黄斑浮腫を治療するための方法は、生体内分解性インプラントを、約 6 ヶ月に 1 回から約 9 ヶ月に 1 回の頻度でそれを必要とするヒトの硝子体に入れることを含む。本生体内分解性インプラントとしては、生分解性ポリマーマトリックス内に均一に分散した活性薬剤を含んでもよい連続的な二段押出された棒を挙げることができる。生分解性ポリマーマトリックスとしては、親水性末端基を有するポリ(D, L-ラクチド-co-グリコリド)(PLGA)と疎水性末端基を有するポリ(D, L-ラクチド-co-グリコリド)(PLGA)の混合物を挙げることができる。生体内分解性インプラントは、眼の領域に埋入するための大きさに作られてもよい。一部の実施形態において、活性薬剤は、副腎皮質ステロイド薬である。本方法は、DMEを治療するのに治療効果がある場合がある。一部の実施形態において、活性薬剤はデキサメタゾンである。一部の実施形態において、黄斑浮腫は糖尿病黄斑浮腫である。一部の実施形態において、デキサメタゾンは、生体内分解性インプラント中に生体内分解性インプラントの総重量に基づいて 60 重量%の量で存在する。一部の実施形態において、疎水性末端基を有する PLGA は、生体内分解性インプラント中に生体内分解性インプラントの総重量に基づいて 10 重量%の量で存在する。一部の実施形態において、親水性末端基を有する PLGA は、生体内分解性インプラント中に生体内分解性インプラントの総重量に基づいて 30 重量%の量で存在する。ある実施形態によると、ヒトは偽水晶体レンズを有する。別の実施形態によると、ヒトは有水晶体レンズを有する。